

おとなりに

あげる安心 火の始末

小さな火の取り扱いに注意して

春は火災が多いシーズン。この時期は空気が乾燥しており、更に「春一番」に代表されるような強い季節風が吹く気象状態の悪い日が続きます。また、山田堰の水止めも重なるため、ちよつとした火事でも大きくなり、莫大な財産と尊い生命が失われます。

三月一日から七日までは、春の全国火災予防運動。火事を出さないように一人ひとりが十分注意してください。

多い！ “ついうっかり”型

昨年一年間に市内で二十二件の火災が発生、建物など九千四百万円が灰になり、一人の方が負傷し、一人の方が亡くなりました。

出火の原因は、たばこの火の不始末が最も多い四件で、次いでたき火の不始末三件、ガスコンロの消し忘れ二件などが続いています。特にたばこの火の不

始末は昭和六十三年が一件であるのに対し三件も増加。

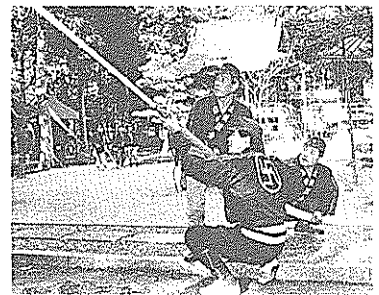
そのほか、風呂の空だし、石油ストーブに誤ってガソリンを入れた、電気ストーブの上にケールを取り込んで置いたなどのケースも見られ、“ついうっかり”型の火災が半分以上を占めています。

つい先日、隣の高知市や吉川村で幼稚園児や赤ちゃんが焼死する痛ましい火災が起こったばかり。また、全国的にも高齢

者や体の不自由な人、病人、赤ちゃんが火災による死亡者の約五五割に上っています。自力で逃げられない人にとって火災は生命を脅かすものです。

次のようなことに注意して、火事を出さないようにしてください。

- 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 子供はマッチやライターで遊ばせない。
- 風が強いときはたき火をしない。
- 天ぷらを揚げるときはその場を離れない。
- 家の周りに燃えやすいものを置かない。
- 風呂の空だしをしない。
- ストーブには燃えやすいものを近づけない。



国分寺の防火訓練

文化財を 火災から守ろう

私たちの南国市は、先人の遺産があちこちにある「まほろばの里」。これらの文化財は一度失うと取り返しがつきません。火災などの災害から守り、次の世代への贈り物として伝えていきたいものです。



踏切事故を 防止しよう

一度止まって安全確認

踏切事故は、死亡事故になるケースが多く、また列車の乗客が巻き添えだけがをすることもあります。

JR四国では、昨年四月から今年一月までに四十件の踏切事故が発生し、九人が死亡、二十五人がけがをしました。

このうち最も多いのは自動車

- と列車の事故。原因は、直前横断十九件、警報無視四件、落輪四件、停止位置不良三件などで、ドライバーの無謀運転によるものがほとんど。
- 車を運転するときは、次のことを守りましょう。
- 踏切の手前で必ず止まって安全を確認。
- 踏切の上で自動車が動けなくなったときは、踏切の非常押ボタンを押して、列車を止める手配をする。押ボタンがない場合は、赤旗や発煙筒で知らせる（自動車に必ず備えつける）。
- また、線路付近で子供を遊ばせたり、線路や鉄橋を通ったりするのは危険です。
- あるときも少し注意していただければ、と後悔しないようにしてください。